

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月20日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22730556

研究課題名（和文）成人期に達した先天性心疾患患者の自立と心理的特徴—発達過程との関連から—

研究課題名（英文）Independence and psychological aspects in adults with congenital heart disease

研究代表者

榎本 淳子 (ENOMOTO JUNKO)

東洋大学・文学部・准教授

研究者番号：50408952

研究成果の概要（和文）：医療技術の向上により生まれつき心臓に疾患を持った先天性心疾患患者の多くが成人期を迎えることが可能になるとともに、患者の社会的自立や生活の質についてそれを妨げる問題点とともに新たな課題が提示されている。本研究では成人期に達した先天性心疾患患者の心理社会的特徴を明らかにし、患者の自立や精神面に影響を与える要因を検討した。その結果、患者は同世代の成人と比較して社会的スキル、自尊感情、独立心が低く、そのことが患者の精神面や自立に影響を与えていること、また年齢とともに不安感が高くなる患者数が増加することが示された。医療者はこれらの特徴を生かした支援について考えていく必要がある。

研究成果の概要（英文）：Most children with congenital heart disease (CHD) are able to survive beyond adulthood due to medical advancements. Because of this situation, we have new issues related to the social adaptation of adults with CHD (ACHD). The aim of this study is to clarify the psychosocial aspects of ACHD patients and to determine psychosocial factors influencing the mental health of patients. As a result, the psychosocial factors influencing ACHD patients' mental health are social problem-solving, independence, and self-esteem. However, in all of those areas CHD patients have poorer abilities than other people of the same age. Therefore ACHD patients run the risk of easily losing their mental health balance. Furthermore, the number of patients with high anxiety increases with their age. Medical care professionals should consider the possible need for psychosocial interventions for ACHD patients.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：先天性心疾患・成人・心理的特徴・自立

1. 研究開始当初の背景

医療技術の向上により、生まれつき心臓に疾患を持った先天性心疾患患者の多くが成人期を迎えることが可能になった。先天性心疾患の発生率は新生児の約1%で、現在ではそのうちの90%以上が成人を迎え、成人となった先天性心疾患患者(成人先天性心疾患患者)は飛躍的に増加している(丹羽, 2008)。こういった状況に伴って、患者の社会的自立や生活の質についてそれを妨げる問題点とともに新たな課題が提示されている。特に自立の問題に関しては、就業が可能にも拘わらず就業しない、家に引きこもりがちになるなどが指摘され、医師や看護師など医療関係者は病気の治療や管理のみならず、何が原因で社会的自立が妨げられているのかに目を向け、支援の方策、さらに予防的な手段を探っている。

成人先天性心疾患患者の社会的自立について現在までの研究は、その多くが医師、看護学系研究者によって行われ、患者の教育程度、就業状況、婚姻など、社会的特徴が調査されている(赤木他, 2003; 丹羽他, 2002)。その結果、重症度の高い患者ほど一般成人と比べて社会的自立の程度が低いことが示され、また患者の心理的特徴に関しては、依存的で未成熟(Kovacs et al., 2005)、仲間からの孤立感が強い(Horner et al., 2000)、抑うつ的で不安が高い(Kovacs et al., 2008)ことがあげられている。これらの状態が社会的自立を妨げる心理的要因のひとつとして考えられるが、あくまでもある部分的側面に過ぎず、より詳細で体系的な調査が望まれる。

また成人先天性心疾患患者の心理的特徴は国によってその結果が異なることが指摘

されており(Kovacs et al., 2005)、本邦における患者への具体的な支援を考えるためには、日本人を対象とし、さらに詳細な調査を行う必要がある。

本邦において先天性心疾患患者を対象とした調査は、看護学系研究者によって調査され、乳児期から青年期までを対象としているものが多く、成人期を対象としているものはあまりない。本研究では成人患者を対象としその心理的特徴について明らかにし、さらに発達上の課題との関連について検討する。その上でどのような働きかけが重要なのか、予防的な視座を提示できれば、それはなお一層患者、患者の周囲の家族や教師、医療者にとって望ましいことであろう。

2. 研究の目的

本研究では(1)成人先天性心疾患患者の社会的自立を妨げている心理社会的要因を探るため、患者の心理的特徴について明らかにする、(2)患者のそれまでの発達過程と自立を妨げる心理的要因との関連を検討する。その上で円滑な社会的自立のために成人期までの発達過程でどのような働きかけが重要なのか予防的手段を検討する。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、(1)成人先天性心疾患患者の心理的特徴について情報を収集する。このためにまず研究が進んでいる海外での文献をレビューする。(2)患者の発達過程を明確に捉えるため、面接調査を実施することによって青年期の患者が経験する困難さや生活の特徴について情報を得る。(3)成人患者の体系的な心理的特徴を明らか

にするため質問紙を作成、実施し、患者の心理的特徴と自立との関連を探る。

4. 研究成果

(1) 先天性心疾患患者に対する海外における研究状況

この分野における成人患者を対象とした研究は、1990年代頃から行われているが、心理的特徴や精神的状態を示した結果に統一した見解は得られていない。例えば患者の精神心理的問題について統制群や国民標準値と比較した研究では、差異がほとんど見られないとするものや逆に精神疾患の有病率は15%~80%と非常に高い値を示した研究もある。これらのことから考えて、本研究においては海外でも使用されている尺度を含めることで結果を広く比較する必要性や、国内においても同じ調査を複数回行う必要があることが考えられた。

(2) 患者の心理的特徴と自立

① 調査1

面接調査後、調査内容を定めて質問紙調査を行った。調査1は、成人先天性心疾患患者72名、同世代の成人(統制群)82名を対象に実施した。その結果心理的側面としては、統制群と比較して患者群は問題解決力、自尊心、独立心が低く、親への依存性が高いこと、またQoL(Quality of Life)の精神的健康面は統制群と比較して差異はみられないことが示された。心理的側面と精神的健康との関連を検討すると、精神的健康に最も影響を及ぼしていたのは問題解決力で、さらにその問題解決力には自尊心、独立心の高いことが影響していた。しかし患者群はこれらの3側面全てが低いことから、容易に精神的健康を損なう可能性が示唆された。なおこれらの心理的側面、精神的健康面は患者の疾患の重症度とは関連しておらず、患者の心理的問題は疾

患の軽重とは関係がないことが明らかとなった。また、QoL尺度は海外でもよく使用されているものを用いたが、海外の結果と比較して大きな差異はなかった。

② 調査2

調査2は、患者136名、同世代成人(統制群)116名を対象に実施した。特に患者の不安感、抑うつ状態に焦点をあて、また病気認知についても新しく尺度を作成して実施した。結果としては、患者の不安感、抑うつ状態は統制群や海外の結果と比較して全体には差異はなかったが、年齢を考慮した場合、年齢が高くなるほど不安感が高くなる患者数が有意に多いことが示された。またその他にも病気に対する否定的な認知、他者への理解希求についても年齢と共に高くなることが示され、患者は年齢とともに困難さを抱える傾向があることが推察された。さらにこれらの結果は患者の社会的自立の程度や疾患の重症度とは関係がなかった。また患者の社会的状態としては、統制群や国民標準値と比較して患者群は常勤職より非常勤職に就いている割合が高いこと、教育歴としては大きな差異がないことが示された。

(3) 今後の課題

これら一連の結果から、患者の発達課題として、成人期に達する前に問題解決力などの社会的スキルの獲得、また自己決定を含めた自己コントロール感の強化が重要であることが示された。さらに患者の精神心理面は年齢が高くなるとともに課題が多くなることが示唆され、その点についても注目していく必要があろう。

今後の課題としては、成人期の問題が発達段階のどの時期が影響して生じやすいのか、縦断的な調査も含めて明らかにすることが望まれる。またこれらの知見を生かした具体的な支援を提示し、実際に実施を試みるなど

より実践に即した研究が必要であるといえよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① Enomoto J, Nakazawa J, et al. (6名中1番目) (2013). Psychosocial factors influencing mental health in adults with congenital heart disease. *Circulation Journal* 77, 749-755. 査読有
- ② 榎本淳子 (2013). 成人先天性心疾患患者の心理的特徴と対応 呼吸と循環 61, 209-215. 査読無

[学会発表] (計10件)

- ① 榎本淳子 (2013.1.19). Psychosocial factors influencing mental health in adults with congenital heart disease. 第15回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会, 学術総合センター (東京都千代田区)
- ② 榎本淳子・中澤誠 (2012.7.6). 成人期の先天性心疾患患者の精神的問題と自立. 第48回日本小児循環器学会総会・学術集会, 京都国際会議場
- ③ Enomoto J, Nakazawa J, et al (6名中1番目) (2011.11.14). Psychosocial factors influencing mental health in adults with congenital heart disease in Japan. American Heart Association Scientific Sessions. Orange county convention center, U.S.A.
- ④ 榎本淳子・水野芳子他(9名中1番目) (2011.7.6). 成人先天性心疾患患者の自立への困難さー心理面接から見えてくるものー. 第47回日本小児循環器学会総会・学術集会,

福岡国際会議場

- ⑤ 榎本淳子, 中澤潤他(6名中1番目) (2011.1.9). 成人先天性心疾患患者の精神的健康を規定する要因. 第13回成人先天性心疾患学会, 福岡国際会議場
- ⑥ 榎本淳子 (2010.7.8). 成人先天性心疾患患者の心理的課題に対する心理士の役割. 第46回日本小児循環器学会総会・学術集会, シェラトン・グランデ・トキヨーベイ・ホテル
- ⑦ 榎本淳子・中澤潤他(6名中1番目) (2010.7.7). 成人先天性心疾患患者における自立と心理的特徴. 第46回日本小児循環器学会総会・学術集会, シェラトン・グランデ・トキヨーベイ・ホテル

[図書] (計2件)

- ① 榎本淳子 (2012). 青年期の問題 渡辺弥生・榎本淳子(編) 発達と臨床の心理学 ナカニシヤ出版 pp.73-88.
- ② 榎本淳子 (2011). 対人関係ー親子関係から仲間関係へ 中澤潤(監修) 中道圭人・榎本淳子(編) 幼児・児童の発達心理学 ナカニシヤ出版 pp.145-156.

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
榎本 淳子 (ENOMOTO JUNKO)
東洋大学・文学部・准教授
研究者番号: 50408952
- (2) 研究分担者 (0)
- (3) 連携研究者 (0)